

第3回ロータリー・アジア親善会議

1991年5月12～13日於ソウル・新羅ホテル

親善会議連絡委員 大橋 章一 (佐野)

日本 4カ国より175人が参加

日本、韓国、台湾、フィリピンのロータリアンが集う第3回ロータリー・アジア親善会議が初夏の風薫る5月12、13の両日ソウル・新羅ホテルで開催され、日本から蔵並R I 理事、湯浅元R I 副会長、菅野元R I 理事の方々をはじめ175人という多くのロータリアンとご夫人が参加した。会議に先立ち11日夜、同ホテルにおいて韓国の元米山奨学生25人を招き、韓国側から呉在環元R I 理事、米山記念奨学会から湯浅理事長、湯原常務理事、増田P G、戸田P G、南郷主事の方々が出席懇談会を開いたがソウル国際大会以来の再会で話が尽きることなくまた元奨学生があらゆる分野で活躍している様子もうかがい知ることができた意義ある一夜であった。

さて12日夜の第1回会議にはフィリピンからM. A. T. カバラス元R I 会長、サビノ・サントスR I 理事、台湾の李超然P Gらの姿も見られ、439人の参加者の下、盛大に開かれた。呉元R I 理事の歓迎の辞に次いで、菅野元R I 理事は祝辞の中で「会議の構成国である4カ国ロータリアンの友好親善と連帯感がますます強化しつつあることを喜ぶとともに、この会議を育て発展させ、ほかのアジアのロータリー国に拡大していく義務がある」と訴えられた。記念講演は韓国の金贊悦博士による「亜太地域における新たな協力」と題した感銘深いお話がありガバナー夫人の祝歌に始まった懇親晩さん会も和やかな雰囲気の中に1日目は終了した。

比大地震の義援金に感謝

会議の議長は各国持ち回りとし、2日目の第2回会議は中島治一郎P G議長の下に開会、ま

ず蔵並R I 理事は「通信や映像によって世界は近くなったが、真に近くなるためには、知性や善意が伴わなくてはならない、アジアのロータリアンが一堂に会し、お互いの友好を深めることによって真の平和が生まれる」と述べられ、サントスR I 理事は、先のフィリピンの大地震に対する支援に感謝の意を表し、国際協力の基盤について講演。台湾の李P Gは、この会議にさらに多くのアジアのロータリー諸国が参加し、より大きなものとしたいと力説。

各国のロータリーの現況報告では秋山Gより拡大増強の推移、女性会員、財団および米山奨学会、WCSの状況など詳しい資料による報告がなされ、ガルシアGはフィリピンのロータリーはマニラRC誕生以来、会員は国の指導者の核心をなしており、ロータリーは重要なビジネスとなっている、とロータリーの重要性を述べ、庸Gは台湾4地区のポール・ハリス・フェローと、環境保全、WCSについて報告、金P Gはクラブ数会員数、財団、青少年交換、姉妹クラブ、ロータリーコアについて詳細な報告をされた。



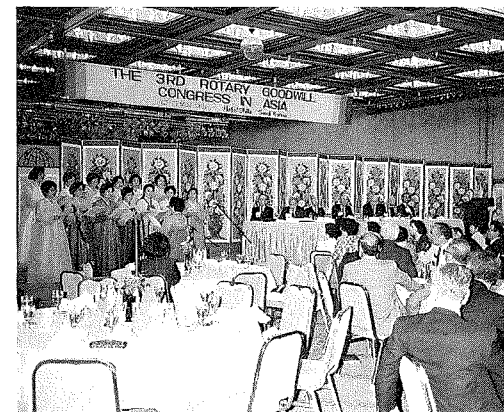
フィリピンからはカバラス元R I 会長も参加、左から3人目

『友』英語版からWCS実績を報告

午後の第3回会議はソウルRC会員夫人によるコーラスで気分をほぐし、次いでカバラス元R I 会長は「フィリピンの381地区と提携地区の日本の255地区との親善会議が大きく発展して、このアジア親善会議になったことをうれしく思う」と前置き「今後定期的な会合を持つことによって、会議の参加国がロータリー財団などを通じてさらに大きな共同努力をされるよう希望する」と親善会議にひとつの目標を示された。

第3回会議は、岡村P Gが『ロータリーの友』英語版のWCSの資料を基に「日本におけるロータリーの世界社会奉仕の現況」を報告、アルエゴGNはフィリピンの国父といわれたホセ・リザールの「青少年は国に希望」を引用、青少年交流の重要性を強調、黄P Gは国家間の理解をはかるための国際共同委員会に、多くの国際会議に参加しているP Gに協力を求めようと発言、南宮P Gは、「私たちは会員相互の接触と真実の奉仕、相互理解を通じてアジアの平和をはかり、維持するよう努力しよう」と呼びかけ、第3回会議を終了。

第4回会議はオープンフォーラムで、呉元R I 理事は、4カ国で基金をつくり、青少年関係の奉仕活動をそれぞれ分担して行うことの研究を、菅野元R I 理事は各国の親善会議委員の中から各2人を常任委員として選任、この委員による会議で決められたプログラムの実施の検討



本会議で祝歌を歌うサエ・ソウルRC夫人会メンバー

を、石原P Gは医療奉仕、緑化運動など、具体的なプラン・アイデアの討議を、255地区渡辺会員は参加各クラブで姉妹クラブの締結を、大橋はアジアの青少年交流の必要性をそれぞれ提言、フォーラムを終わった。

1992年はマニラで

開会式ではホスト韓国ロータリーに対する感謝の特別決議、青少年奉仕関係プログラムの実施、活動プログラムの促進をはかる機構の設置など6項目の決議を上程、可決した。カバラス元R I 会長は所見の中で呉元R I 理事の会議に対する指導力と会議の成功をたたえ、次年度の会議を期待すると述べられ、フィリピン代表が(1992年2月11～12日第4回親善会議はマニラで)と大きな横幕を掲げ、盛大な拍手の内に会議は閉会したが、この親善会議も回を重ねること3回にして親睦から奉仕活動実施へと踏み出したことは大きな成果で、今後はほかのアジアのロータリー国の参加を切に望むものである。

行き届いたホストの配慮に感謝

同夜は参加ロータリアン全員を招待するという韓国の各クラブ主催の晩さん会がホテルの随所で催され、夜の更けるまで懇親の宴が持たれた。心憎いまでの行き届いた運営をされたホスト韓国ロータリーの呉在環元R I 理事をはじめ皆さま方に心から厚くお礼申し上げます。ではまた明年マニラで。(第255地区 1981-82年度G)



次回開催地のマニラをアピールするフィリピンの代表団